

松本泰弘さん・大足陽子さん 栃木県の農業士に認定

1月11日(火)、栃木県農業士に認定された松本泰弘さんと、栃木県女性農業士に認定された大足陽子さんが市役所を訪れ、石坂市長へ報告をしました。

松本さんは、主にいちごを栽培し、病害虫の発生を見越した農薬散布、炭酸ガスによる光合成促進などを行い、高品質かつ高収量を実現しています。

また、大足さんは、水稲とタマネギ、レタスを栽培し、化学肥料や農薬の使用を最低限に抑えるなど、消費者へ安全な農作物を届けられるよう日頃から取り組んでいます。

両氏は「もっと真岡市のいちごをアピールしていきたい」、「地域のために頑張っていきたい」と今後の抱負を語りました。

これを受け、石坂市長は「お米もいちごも市にとって大事な農産物。今後も経験を生かし、頑張ってください」と話しました。



左から、松本寛子さん・泰弘さん、石坂市長、大足陽子さん・篤志さん



地域公共交通活性化協議会 および地区説明会を開催

1月20日(木)、市役所で、真岡市地域公共交通活性化協議会が行われました。

今年度3回目の開催となるこの協議会では、主にいちごバスのバス停や運行ダイヤなどについて話し合いました。

また、1月21日(金)から27日(木)までの期間、市内5カ所、今年度3回目の地域公共交通に関する地区説明会が行われ、最終日の27日(木)には、市民会館小ホールで、真岡地区の区長や民生・児童委員など地域の代表者を対象に説明会が開かれました。

説明会では、主にコミュニティバスの運行を真岡地区以外にも拡大する計画について市の担当者から説明があり、新たな運行ルートについて意見が求められました。



左から、石坂市長、本田柊斗さん、西川諒さん

真岡東中学校 ロボコン全国中学生大会に出場

12月5日(日)に行われた、第21回全国中学生創造ものづくり教育フェア創造アイディアロボットコンテスト関東甲信越地区大会基礎部門で、真岡東中学校のチーム「ひがし野アトランティス」が優勝しました。また、同大会の応用・発展部門では、同校のチーム「ひがし野しゅうとくす(しゅうとくす)」が準優勝しました。

両チームは全国大会の出場に当たり、1月19日(水)、優勝チーム代表の西川諒さんと、準優勝チーム代表の本田柊斗さんが市役所を訪れ、石坂市長と面会しました。西川さんは、その場でロボットの操作技術を披露し、本田さんは「次の大会では優勝したい」と抱負を語りました。

1月22日(土)に行われた全国大会では、両チームとも健闘した結果、ともに審査員特別賞を受賞しました。



手作りロボットの操作技術を披露



感謝状を受け取る初代タイガーマスク

暴力団追放活動協力者に 感謝状を贈呈

1月27日(木)、市役所で、暴力団追放活動協力者感謝状贈呈式が行われ、初代タイガーマスクの佐山聡さん、一般社団法人初代タイガーマスク後援会代表理事の新聞寿さん、ストロングスタイルプロレス代表代理の中村之洋さんが来庁しました。

今回の贈呈式は、石坂市長が会長を務める真岡地区暴力団追放対策協議会と真岡警察署が、共同で暴力団追放活動啓発グッズとしてタオルを作成した際に、初代タイガーマスクのロゴマーク使用を許可するなど、暴力団排除の機運を盛り上げる活動に賛同、協力していただいたことに対し、感謝状を贈呈するものです。

新聞代表理事からは「いつでもどこでも、困った人が居たら傍観者にならず、一緒に頑張って助けたい」と、あいさつがありました。



交通安全市民大会を開催

1月20日(木)、市民「いちご」ホール大ホールで、令和3年度真岡市交通安全市民大会が行われました。

この大会は、市民の交通安全に対する意識の高揚や、交通事故防止に取り組む決意を新たにすることを目的としています。

大会では、交通事故犠牲者に対する黙とうが行われ、石坂市長や小野真岡警察署長から、市民一人一人の交通ルール順守や、他人を思いやる行動の大切さについて、あいさつがありました。

市内小学校の児童6人による交通安全作文の朗読では「歩行者と運転者がお互いに交通ルールを守ることが大切」、「安全は車間距離と比例する」などといった言葉で、交通安全が呼び掛けられました。(関連記事を11ページに掲載)



交通安全を呼び掛けた馬鳥源央さん(真岡小)



栃木県警察音楽隊の演奏も披露されました

入院中の子どもたちが オンラインでいちご狩り

1月15日(土)、16日(日)、井頭観光いちご園・ストロベリーファームおおつかのハウスで、オンラインいちご狩りが開催されました。

これは、コロナ禍の状況を踏まえ、インターネットを通じていちご狩りを楽しみ、摘んだいちごをお届けするイベントです。

16日(日)は、自治医科大学付属病院ごども医療センターに入院している子どもたち3人がいちご狩りを楽しみました。

子どもたちは、それぞれの端末から、現場のスマートフォンやタブレットで写した画面を通じて、生産者の大塚さんのアドバイスを受けながらお気に入りのいちごを選んでいました。

それぞれ選んだいちごは、その日のうちに発送され、子どもたちの元へ届けられました。



おすすめのいちごを説明



子どもたちが選んだいちご